



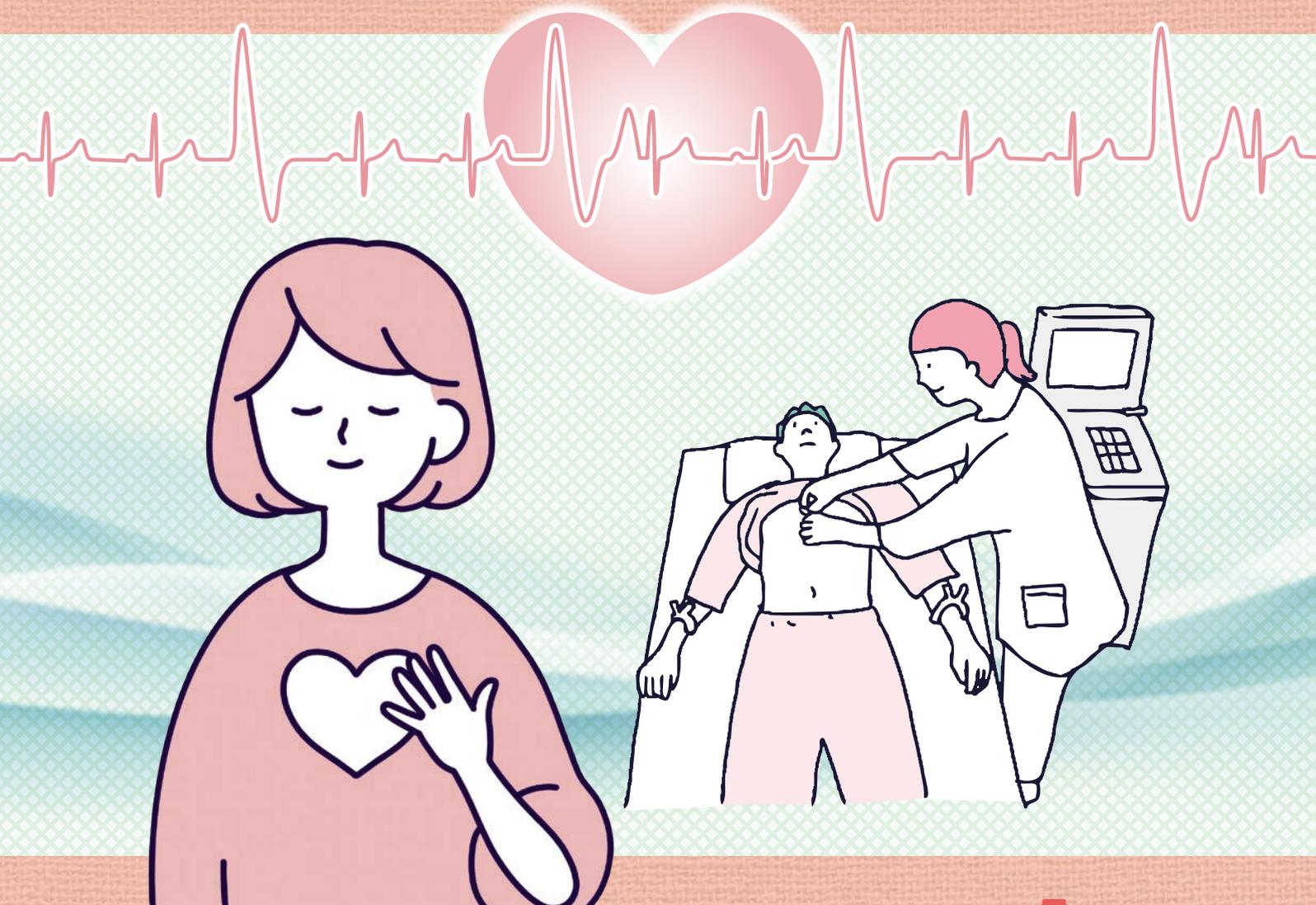
しろうさぎ

S H I R O U S A G I



TAKE FREE

ご自由にお持ち帰りください



特集 Special issue

『先天性心疾患について』

インタビュー

- 小児科 講師..... 安田 謙二
- 小児心臓外科(心臓血管外科内) 講師..... 中田 朋宏
- 循環器内科 教授..... 田邊 一明

Contents

- *Professor ~どんな先生?~
- *ニュース&トピックス
- *まるわかり看護部
- *私のここだけの話
- *病院紹介
- *イベントなどのお知らせ
- *しまだい病院のキラ☆めき!

先天性心疾患（生まれながらの心臓の病気）を持ったお子さんは100人に1人くらいの割合で生まれてこられます。かつては、子どもの病気というイメージがありましたが、現代では90%以上の方が成人され、実際に病院にかかっておられる患者さんの割合は小児より成人の方が多くなっています。

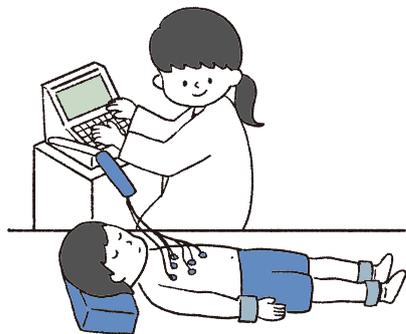
当院では、診断から治療、小児から成人まで継ぎ目のない医療を提供できるよう関係の診療科が連携しています。

まず、小児科の安田先生にお話を聞きました。

小児科 講師 ^{やす だ} ^{けん じ}
安田 謙二

先天性心疾患はどのように見つかりますか？

先天性心疾患は生まれつき心臓や血管の形が正常と異なる病気で、胎児期～乳児期に見つかることがほとんどです。胎児期でも、胎児エコー（超音波）検査によって心臓の大きさや構造を見てある程度の診断が可能です。胎児期に疾患が疑われた場合には、産科と連携しながら赤ちゃんが生まれてくるのを待って診療を開始します。また、新生児期の健診、乳児期の定期健診の際に、心臓の雑音やチアノーゼ、体重の増加が少ないなど、心臓に係わる症状があり他院から紹介されて診断をすることも多いです。



どのような治療法がありますか？

一言に先天性心疾患と言っても疾患の種類は多く、カテーテル治療や手術など治療法も様々です。非常に軽症で心臓の負担になっていなければ、治療の対象にならず定期的な健診をしながら経過を見守る患者さんもおられます。また、今までは手術でしか治せなかったものでも、身体への負担の少ないカテーテル治療ができるようになった疾患もあります。

現在、当院では年間で50件程度の手術を行っています。手術の場合にも心臓のエコー検査や必要であればカテーテル検査をして手術や治療が必要かどうか、そしてどのような治療法が望ましいかを評価し、小児心臓外科と相談をしながら、治療方針を決定しています。



〈小児科 循環器グループで診療を行っています。〉
中嶋 滋記 先生 安田 謙二 先生

治療後の経過は？

治療後のフォローも小児の役割のひとつです。必要なタイミングで患者さんそれぞれに適した手術を行っても、手術をしてから時間が経つことで問題が生じることがあるためです。

最近では、中等症・重症の方でも治療をして成人される方の割合が高くなりました。これまでは小児に限らず成人しても主として小児科が継続して診療をしていましたが、成人の患者さんが増え、成人期医療への移行が昨今の課題となっています。当院でも循環器内科と連携して成人先天性心疾患に対応する体制作りのための取り組みを始めています。



当院では山陰地方で唯一、先天性心疾患の外科治療を行っています。外科治療を担当する小児心臓外科の中田先生にお話を聞きました。

小児心臓外科(心臓血管外科内) 講師 なか た **中田** とも ひろ **朋宏**



先天性心疾患に対する手術

先天性心疾患は、生まれつき心臓や血管の一部が正常とは異なっている病気であり、例えば心臓の中の壁に穴が開いていたり、血管と血管が入れ替わっていたりといったことによって、問題が起こっている病気です。このため元々正常な心臓に後から問題が生じて起こる成人期の心疾患に対する心臓手術とは、手術の内容やコンセプトが大きく異なります(疾患ごとの治療法を小児心臓外科HPで紹介しています)。小児心臓外科では、新生児から小児期、学童期から青年期、また先天性心疾患をお持ちで成人になられた方々も対象に、幅広く先天性心疾患に対する手術を行っています。

心がけておられることはありますか？

疾患の種類や重症度によっては人工弁や人工血管に置き換える手術が必要な場合もあります。成人の場合、成長によってサイズが変わることを考慮する必要はありませんが、小児は成長に伴って体格などが変化することを想定しなければなりません。成長によって人工弁や人工血管が身体に合わなくなると、それらをサイズアップするための再手術が必要になるた

め、出来る限り人工物に換えない手術をしたいと考えています。どうしても人工物に置き換えざるを得ないときには、無理のない範囲でサイズの大きなものを使用し、少しでも再手術のタイミングを遅くすることが出来るよう心がけています。

手術説明外来

手術をする必要があると判断された場合には、まず手術説明外来にお越しいただき、手術の内容や起こりうる合併症のこと、また手術当日から退院までの流れなどについてご説明しています。

また、手術説明外来では、手術を受けるかどうか悩んでおられる患者さんやご家族のご相談も受け付けております。必要な時に適した治療ができるように、治療に悩まれている方や手術についてお話を聞かれたい方は、ご予約ください。

小児心臓外科HP

先天性心疾患の病気、それぞれの治療法について、手術の流れや当院の施設に関することなどを紹介しています。



現在、国内で先天性心疾患を持つ成人は50万人以上と推定されます。2018年には『先天性心疾患の成人への移行医療に関する提言』が発表され、成人先天性心疾患に対する診療体制構築の必要性が示されました。移行医療に対応する体制作りのための取り組みについて循環器内科の田邊先生にお話を聞きました。

循環器内科 教授 **田邊** **一明**



移行医療とは？

小児期に難しい手術をした方でも、学校へ通ったり成人したりライフイベントを考える時代になりました。適切な手術を受けていても治療から時間が経つことや、また小児期には軽症であっても年齢を重ねていくことで症状の悪化や合併症が出てくるため、先天性心疾患は長期的な管理を必要とします。生涯に渡って安心して医療を受けられるように小児科から成人期の診療科への移行医療が近年の課題になっています。

小児期では保護者が主体となって説明を受け治療を決定することが多いですが、成長していく過程の中で、患者さんご自身が病気のことを理解できるように自立に向けた支援も移行医療において重要です。また、小児科から成人期の診療科へ移ると、一から主治医との関係作りが始まります。簡単に移行が進まないこともあり小児科に留まる患者さんがおられるのも現状です。

ただ、成人期に達すると、成人特有の疾患や問題も生じてきます。患者さんが安心して移行を進めら

れ、受け入れる医療者側も先天性心疾患をよく理解して対応できるように、移行医療の体制作り、成人先天性心疾患を専門とする医師の育成に向けた取り組みを始めています。

今後の展望

2022年1月より移行医療の体制作りのために小児科と連携して成人先天性心疾患カンファレンスを始めました。手術から時間が経過した成人期の患者さんの今後の治療方針などを検討したり、小児循環器を専門とする先生に講義をしてもらったりしています。

また、当院は日本成人先天性心疾患学会の専門医を養成する連携修練施設として山陰で唯一認定されています（2022年3月時点（図））。成人先天性心疾患を専門とする医師の育成にも取り組んでいます。今後はより複雑で重症な成人先天性心疾患患者さんが増えることも予想されます。先天性心疾患の特性を理解しながら、成人特有の病気の治療もできる専門医を育成していくことを計画しています。

日本成人先天性心疾患学会

- 専門医総合修練施設
- 専門医連携修練施設





Professor

～どんな先生?～

島根大学病院に所属する教授の人柄、専門分野などを紹介するコーナーです。



患者さんに寄り添う皮膚科

皮膚科学講座 やまさき 山崎 おさむ 修

皆様はじめまして、森田栄伸前教授の後任として2022年2月に着任しました山崎修と申します。私は一般皮膚科とともに、皮膚がんの診療を長年してきました。2015年より全国初の岡山大学病院メラノーマセンターが開設され、センター長をさせていただきました。皮膚がんが専門ですが、当教室のアレルギーや下肢静脈瘤の診療体制を維持し、形成外科と緊密に連携しながら、当院を山陰の皮膚がん診療の拠点にしていきます。皮膚疾患は非常に多く、

皮膚がん、皮膚リンパ腫、水疱症、重症薬疹、重症皮膚感染症、熱傷などの集学的治療を行うのが大学病院の責任です。標準的な治療や高度な手術の提供はできますが、相談しながら個々の患者さんにとって最良の治療となるように努めます。

教室員は少ないですが、みんな優しく、チームワークは最高です。病棟外来スタッフ、関係科、多職種で連携し、治療にあたります。皮膚科は手ごわい病気も多いのですが、患者さんの皮膚の悩みにスタッフ一丸となり寄り添っていきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染を阻害する次世代ワクチン開発について



ニュース トピックス
NEWS & TOPICS

医学部医学科生化学講座(病態生化学) うらの 浦野 たけし 健

新型コロナウイルス感染症は、変異株の拡がりに伴い、一向に収まる気配がありません。国民の健康維持とともに、経済活動維持、外交や安全保障の観点からも、国家戦略として、他国の事情に左右されない、国産のワクチン・治療薬の開発が重要ですが、いまだ社会実装に至っていません。島根大学医学部では、2020年4月に旭化成(株)、京都大学、長崎大学、三重大学との4大学による次世代ワクチン開発プラットフォームを設立し、RNAワクチンとは異なる戦略(安全性を重視し、小児にも接種可能)に基づく次世代ワクチンの研究開発を実施してきました。マウスを用いた結果ですが、新型コロナウイルスの感染を防ぐ中和活性を有する抗体価の上昇・1年以上の長い持続期間・免疫記憶の誘導ができる新しい国産ワクチンの開発に成功し、昨年の暮れに特許出願をおこないました。

生体にも存在する材料を用いた安全性・免疫組織への高い抗原送達能力から子どもへの接種も可能なワクチン、また、粉末乾燥させても十分な効果を保持していることからコールドチェーンを必要としない(室温流通できる)ワクチンとなる可能性を有しています。速やかに社会実装できるように展開していきます。

なんとと言っても、ウイルス感染を防ぐには、身体のなかに取り込まないことが一番大事です。3密を避け、マスク・手洗い・うがいの基本をしっかりおこないましょう!



まるわかり看護部

★MARUWAKARI・KANGOBU★

B病棟3階・産科婦人科外来・
母体胎児集中治療室 (MFICU) かすもり かすえ
看護師長 **数森 和栄**

B病棟3階は産科婦人科病棟です。産科婦人科外来と一元化されており、看護師・助産師は病棟と外来を行き来し、切れ目のない支援を目指しています。

産科は、妊娠中から分娩・育児についてお話をし、退院後ご家族が順調に育児をスタートできるようお手



伝いしています。当院は、2021年4月に総合周産期母子医療センターに指定され、母体胎児集中治療室では、他院

島根大学病院看護部は、30以上もの部署があります。それぞれの部署はどのような役割を担っているのでしょうか。このコーナーでは、当院看護部についてまるっとお届けします。



からの母体搬送を受け入れています。新生児集中治療室と連携しながら安全に出産できるよう、きめ細やかな治療を提供しています。また不安を抱えておられるハイリスクの妊婦さんへ、気持ちに寄り添った看護を心がけています。

婦人科は、子宮や卵巣の病気に対して手術や化学療法などを行っています。外来通院中から、痛みや副作用症状の緩和、精神的支援に努めています。

患者さんやご家族に安心した生活をしていただけるよう、退院後の生活を見据えて退院支援職員・社会福祉士など多職種と連携をしながらサポートしています。

C病棟9階 看護師長 かげやま みほこ
陰山 美保子

C病棟9階は、個室病棟・女性病棟で全診療科にわたって対応しています。全個室で静かな環境の中プライバシーが守られ、ゆったりと落ち着いて療養することができます。最上階から見える四季折々の山並みや出雲平野の風景は心の癒しとなっています。時々、神戸川を優雅に泳ぐ白鳥を患者さんと共に見て感動を分かち合っています。私達は検査入院や手術、化学療法等を受ける患者さんと関わらせていただいています。患者さんが安全に、安心して検査や手術、治療やリハビリが受けれるように、常に患者さんに寄り添う看護を心掛けています。また患者さ

んがその人らしく住み慣れた場所で生活できるように、多職種と連携し早期から退院支援を行っています。職員間のコミュニケーションとチームワークを大切に、いつでも笑顔で丁寧な看護を行っています。



私のここだけの話

「庭と部屋のリフォーム」

医療サービス課 たくわ みゆき
課長補佐 **多久和 美幸**

コロナ禍で自宅にいたことが多くなると、やはり気になるのが家のことです。昨年は庭のリフォームを行いました。庭の生垣の手入れや草抜きなど手に余るようになってきたので、いっそのこと木を全部切ってしまう!と思い立ち、渋柿の巨木をはじめ、たくさんの木を自分たちで切り倒しました。さすがに根っこ基礎工事は業者に頼みましたが、防草シートと玉砂利をホームセンターで購入し、家族総出で整備しました。半年に渡り作業を行い、草の生えない手入れも不要の石庭が完成しました。

次に目を付けたのは、物置と化していた部屋です。現在進行形でリフォーム中です。写真は床板を剥がし、

床下調湿炭を敷き詰めたところ。床にコンパネを貼るため電動ドリルの扱いもだいぶ馴れました。壁の色塗りを行い、床板を貼ったので、もう少しで完成です。完成した部屋でくつろぐのを想像しながらの作業は休日の楽しみとなっています。



リフォーム後の庭



部屋のリフォームの様子



病院紹介①

子どもとAYA世代サポートセンター

当センターは病院にかかわる子どもからAYA世代と呼ばれる若い世代（概ね15歳～30歳台）の方々の支援を目的としたセンターです。患者さんご本人の療養支援・就学就労支援や、病気の親を持つ子どもたち、病気の子ども



の親・きょうだいたちの生活も含めた支援を行っています。チームは医師・看護師・心理師・チャイルドライフ

スペシャリスト・ソーシャルワーカーにより構成されています。患者さんやご家族は病気療養にまつわるいろいろなご不便・心配ごとをお持ちと思います。どんなことを病院に相談してよいのかと心配される方も多いのですが、子ども、AYA世代に関することであれば、どんなことでも結構です。遠慮なく相談していただければと思います。外来、病棟の身近なスタッフにお声がけいただければ、チームがお話を伺いに参ります。

これからの社会を担う若い世代のお手伝いが出来ればと思います。

(前センター長 金井 理恵)



病院紹介②

MEセンター

医療機器の進歩は日進月歩で、機能は高度化かつ多様化しています。これらの医療機器を安全に使用できるようにその運用と維持管理を行っているのがMEセンターです。院内では現在、シリンジポンプ、輸液ポンプ、人工呼吸器、保育器、透析装置、手術機器など様々な医療機器約2000台が稼働しています。MEセンターにはメディカルスタッフの一職種である臨床工学技士が所属し、医療機器のスペシャリストとして機器の管理・運営に携わっています。

臨床工学技士（現在18名）はICU、NICU、手術室、透析室、心臓カテーテル室、高度外傷センター等に配置され、ペースメーカー業務や温熱療法を含めた多岐にわたる業務を担当しています。医療

センター長	たしま 田島	よしつく 義証
副センター長・臨床工学技士長	あけほ 明穂	かすひろ 一広



機器は今後もさらに多様化していくものと思われる、安全性の確保と有効性の維持を通じて、病院機能の維持とチーム医療に貢献して参ります。

イベントなどのお知らせ

島大病院 ちょっと気になる健康講座 放送予定（出雲ケーブルビジョン）

2022年4月放送予定

下肢血管治療センター センター長 新原 寛之
放送内容：「下肢血管治療センターの取り組み」



しまだい病院の キラ☆めき!



島根大学病院でキラキラ輝きながら、めきめきと実力をつけている若手医療職員を紹介します。
皆様に信頼される医療を提供するため、今日も笑顔で、真剣に仕事に取り組んでいます。



卒後臨床研修センター 医科研修医 わたなべ じょう 渡辺 青

医科研修医の渡辺青と申します。この原稿が出るころには2年目になります。出身大学は島根大学ですが、地元は千葉県で入学まで島根県のことは「出雲大社がある」ことしか知りませんでした。ところが6年間の大学生活ですっかり島根の地が気に入ってしまい、卒業後もお世話になっています。若輩者ですが、島根県の医療にすこしでも貢献できるよう、精進してまいります。

ハイケアユニット (HCU) 看護師 さとう はな 佐藤 華

看護師になり2年が経とうとしています。初めは不安な毎日でしたが先輩方が日々優しく支えてくださるおかげで仕事にも慣れ、充実を感じる瞬間も増えてきました。後輩も入り、更に気が引き締まる毎日です。私の所属部署では重症の患者さんも多く、不安を感じる場面はまだあります。そんな時こそ初心に返り、先輩に相談する等振り返るとい姿勢を忘れないようにしたいです。コロナ禍でストレスもありますが自身の体調管理も大切に、これからも仕事に励みたいと思います。



医療サービス課 医療ソーシャルワーカー いけだ まりな 池田 真理奈

医療ソーシャルワーカーとして入社し1年半が経過します。退院調整や患者さんやご家族からの医療福祉相談に携わせて頂いています。先輩方や周りのスタッフの皆さんに支えて頂き現在を迎えることができました。患者さん、ご家族に安心して頂けるよう気持ちに寄り添った支援を心がけています。まだまだ至らないところがありますが初心を忘れずに一生懸命頑張ります。よろしくお願いいたします。

編集後記

今回は、「先天性心疾患」を特集しました。子どもから大人まで安心して医療を受けていただけるように、関係の診療科がどのような役割を担い、連携しているか小児科・小児心臓外科・循環器内科の先生方にお話を聞きました。

やっと!温かく過ごしやすい季節になりました。島根に来て5年経ち、毎年春は雲南の桜を見に行くのが一番の楽しみです。ここ最近では、コロナの影響もあり盛大なお花見はなかなかできませんが、のんびり桜並木を歩くのも気持ちがいいですね。

次回は、7月発行予定です。

【編集者より】

島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ
についてのお問い合わせ先

(このQRコードで携帯から島根大学病院ホームページが見られます!)

医学部総務課 企画調査係 広報担当

☎ 0853-20-2019

✉ mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp

🌐 <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

